

自然を語る会

北海道自然保護協会では、毎年「それぞれの専門の方に自然に関する話題を提供していただき、それについて会員・市民が意見を交換する場」として「自然を語る会」を開催しています。本年は以下のとおりに開催いたします。

会場	札幌市立大学サテライトキャンパス（札幌市中央区北4条西5丁目 アスティ45 12階）
時間	18時～20時（毎回）
定員	24名
参加費	1,000円（会員500円）

第1回

8月9日（火） 終了しました

講師：在田一則（一般社団法人北海道自然保護協会会長）
演題：エネルギー問題と自然保護～エネルギーをどうするか

第2回

9月13日（火）

講師：矢部和夫氏（札幌市立大学名誉教授）

演題：北海道の低地湿原保全に向けた展望

講演概要：1994年北海道湿原保全マスタープランが策定され、法的な効力を有せず規制を伴わなかったが、湿原の保全に対して、積極的に関わる姿勢を示した。多くのまだ未指定の中小湿原を地域指定していく必要がある。

湿原の自然再生事業では、釧路湿原やウトナイ湖などではハンノキによる樹林化が問題である。樹林化は栄養素の流入、水文環境の変化、野火などがきっかけになっており、乾燥化だけが原因ではない。再生事業にあたっては劣化のしくみを解明したうえで対策を考えるべきである。

消失した湿原は創出できないのか？ 札幌の都市公園での人工湿地建設後のフェン創出過程の検証や幌向地区での泥炭採掘跡地のポッグ復元の試みを紹介する。

第3回

10月11日（火）

講師：松田 彊（北大名誉教授）

演題：針葉樹と広葉樹の相克－針広混交林の生態－

講演概略：北海道の天然林の大部分は針葉樹と広葉樹が混じって生立している。この森林のタイプを針広混交林と言い、世界的にはヨーロッパ北部、北アメリカ東部、そして極東の沿海州、北海道からサハリンにかけて分布する。舘脇 操はこれを凡針広混交林帯と名付けた。しかし、これらの地域も今から1万年以上前の寒冷期には、針葉樹だけの単純な世界であった。その後温暖化につれて南から広葉樹が侵入し、今の姿になった。

針葉樹(裸子植物)は進化上古いタイプの樹木であり、広葉樹(被子植物)は機能的に進化した樹木である。北海道の森林は、この新旧の樹木が競い合った結果である。講演では、様々な樹種の更新と成長を見ながら、混交林の生態を考察する。

主催：一般社団法人 北海道自然保護協会 電話:011-876-8546
Webサイト：<https://nc-hokkaido.or.jp/index.html>

※ ご注意：新型コロナウイルス感染症拡大による中止などがあり得ますので、上記協会ホームページあるいは協会事務所でご確認ください。